

これだけは達人に
選んでいただきたい。

わずか三〇〇角の小さな世界に、
あえて古瓦のサビと淡を再現。

◀石州曜変敷瓦▶

生野
〈いくの〉

古瓦「生野瓦」の釉薬表現が開発のモチーフ

室町から江戸時代にかけて全盛を誇った兵庫県
の生野銀山。山名氏、豊臣秀吉、徳川家康
など天下人争奪の的となり、江戸幕府直轄の
天領地として大いに栄えた産業と鉱山の町。
この町にはつい最近まで「生野瓦」という寒に
強い赤褐色の瓦が造られていました。生野瓦
は天然の鉄を多量に含む黄土を使い、還元
瓦特有の表面「瓦1枚1枚の色調が微妙に異
なり、不揃いの妙を表現する」を持つ瓦でした。
当社は、この生野瓦の製法とデザインに着目、
屋根ではなく敷瓦に再現してみました。



生野の古瓦の実物写真



石州瓦 木村窯業所



石州曜変敷瓦

生野
 〈いくの〉

当社の還元焼成技術をベースに、生野という古瓦の色合いをモチーフとして和風というよりは、焼き物が織りなす自然の風合いと質感を再現。それを屋根ではなく、暮らしと密接にかかわりを持つ床に提案します。

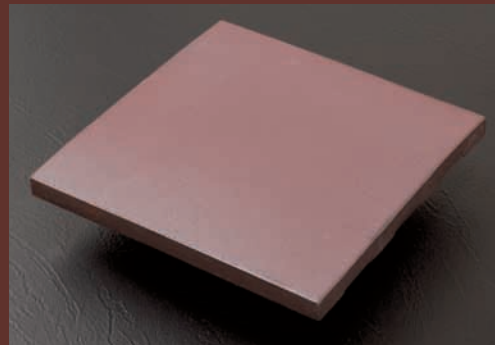
時間の経過とともに淡く変化する表面

曜変という名の不思議な世界

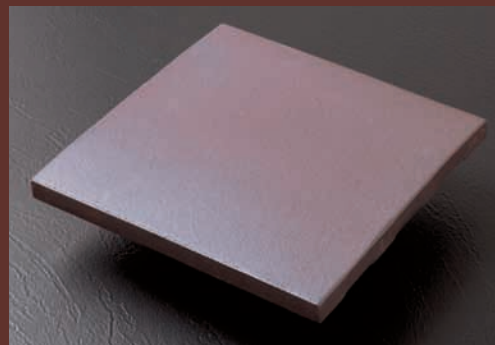
曜変による淡い光沢の濃淡は、季節、見る角度、時間によって変わる光の強弱に応じて微妙に変幻し、多様な建築様式、多彩な町の景観に、まるで生き物のように巧みに融合していきます。

和でもあり洋でもある。和でもなく洋でもない。淡い7色の虹のように変幻自在のありようを見せる曜変という世界の不思議。

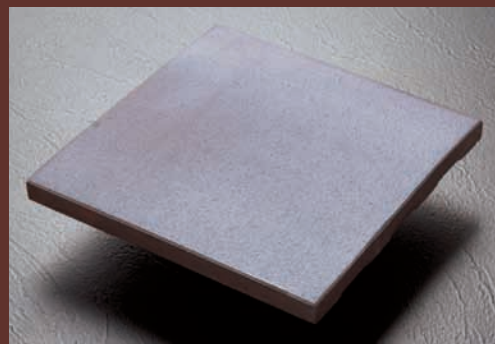
石州曜変敷瓦「生野」は、その不思議な世界を床材に集約してみました。



朝の淡い光を受けた時の色調

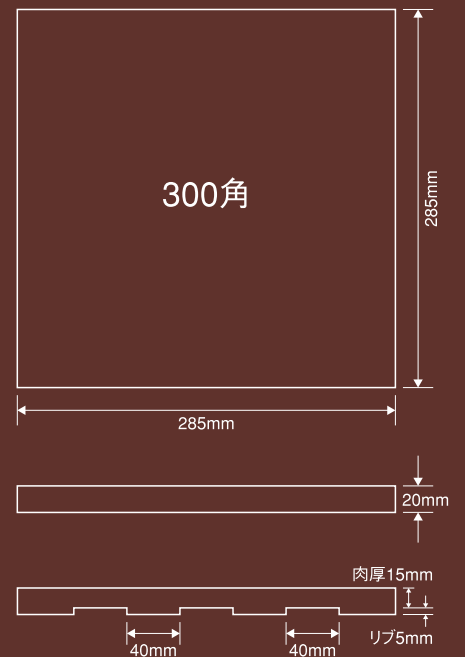


お昼の強い日差しを浴びた時の色調



夕方の弱い光を受けた時の色調

仕様図



サイズ	300角
厚み	20mm
肉厚	15mm
リブ	5mm
㎡当たり枚数	11.5枚/㎡
重量	1枚当たり 3,000(±10)g
	㎡当たり 111.5枚/㎡

 株式会社 木村窯業所

本社工場：島根県江津市都野津町1501 TEL.(0855)53-0618 FAX.(0855)53-0699
 青山工場：島根県江津市二宮町神主1964 TEL.(0855)53-0688 FAX.(0855)53-0656

ホームページへアクセス! ▶▶▶ <http://www.imj.jp/kimura>

E-mail:gaou@green.ocn.ne.jp

※写真は印刷のため、実際の色と多少異なることがあります。

■特約店